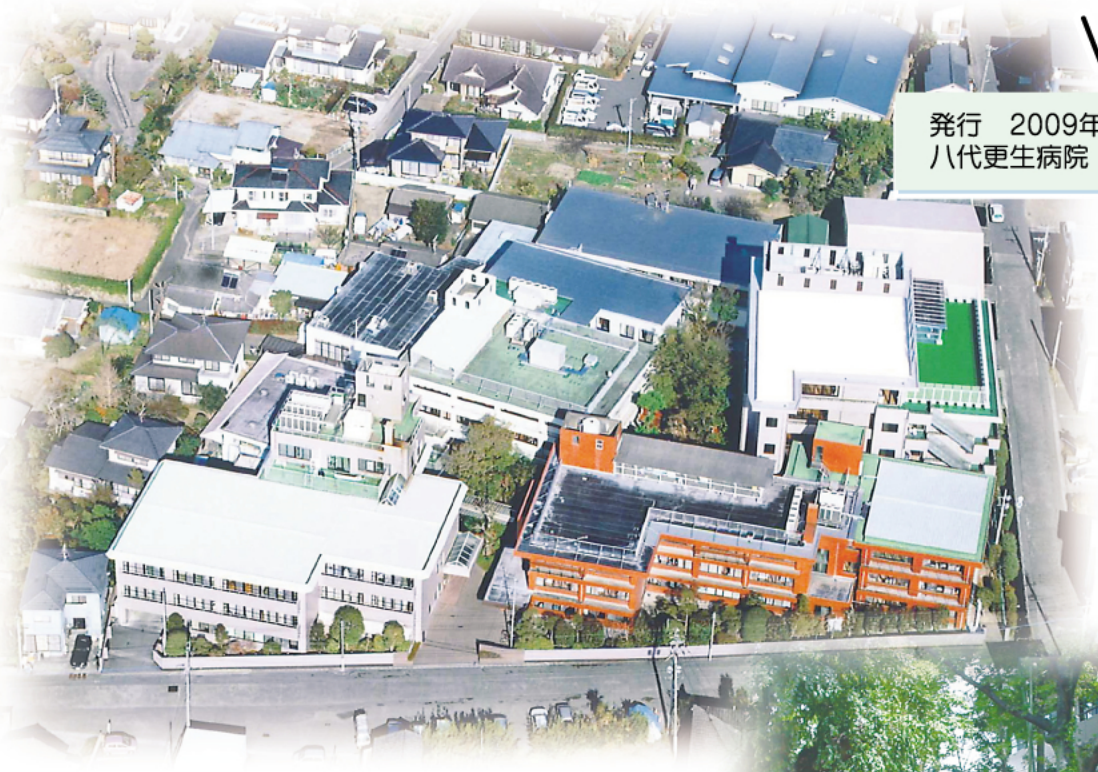
医療法人山田会　八代更生病院だより

くまがわ

Vol.13

発行　2009年12月10日
八代更生病院　広報委員会



Contents

- 開設五十周年記念祝賀会
- 実習・研修
- 院内行事
- 電子カルテ導入

理念

地域社会に信頼される精神科医療をめざし、患者様に安全で安心される質の高いあたたかさと癒しの医療を提供します。

基本方針

1. 満足していただける医療を行います。
2. 快適な院内環境に努めます。
3. 専門知識の向上に努めます。

開設50周年記念祝賀会

祝賀会理事長挨拶

皆様今晩は！今日医療法人山田会八代更生病院の開設 50 周年の記念祝賀会を催しましたところ、土曜日で皆様色々な御用多き日に県外を含む多数の御来賓の御臨席をいただき、心から感謝致しております。

尚、当祝賀会には、当院の職員も夜勤者を除く全員が、参加している事をお許しいただきたいと存じます。

50 年前の 11 月 1 日私共の病院は、精神科病院として誕生いたしました。故山田次郎先生が精神科病院の必要性を痛感され、企画し実行に移されました。

案外スムースに病院が立ち上がった裏には、地元の方々の広い協力が得られ排斥運動もなく、旧麦島城外堀の一角を確保された事と、熊大医学部精神神経科教授の宮川九平太先生の、強い支援があったからと聞いております。

開設当時は、病床数 37 床、職員 16 名で発足しましたが、直ぐに満員となり、その後次々と病床を増築して参りました。現在は 260 床、職員 198 名で診療に当っております。

昭和 47 年 10 月に山田次郎先生が病に倒れ、その後今村泰雄が理事長を務め今日に至りました。

既設の建物は木造かブロックでありましたので、その後の建物は近代化につとめ、新改築をすすめてまりました。

平成 15 年から患者入院室を最低 8 ㎡とする全面増改築を実施し面目を一新する事ができました。

その頃職員の士気も高くこの機を捉えて、平成 16 年日本医療機能評価機構の審査に応募する決意を固め、平成 17 年 6 月に 1 回の審査で合格する事が出来ました。

昨年には、全館スプリンクラーを設置し、火災対策を充実させ、患者様、職員の安全を計りました。宮本病院長の発意で現在は、電子カルテシステム導入に向け工事を行い、来年早々実働に移る事が出来ると思います。

一方診療面では、院長を中心に全職員が新しい知識の研修につとめると共に各職務間の連携を強化し、看護の質の向上に努力しております。

亦、精神科の単科病院のため、診療中他病併発がみられる時、市内の公立病院と開業の先生の好意によって支障なく続けられる事心から御礼申し上げます。50 周年の誕生日を迎え、今までの皆様の御協力御支援に、心から感謝申し上げます。

新たな出発にあたり、更に医療の原点に帰り、信頼され市民に愛される病院へと前進することをお誓い申し上げます。

今日は、誠にありがとうございました。厚く御礼申し上げます。

初代八代更生病院理事長
山田次郎像

50周年記念行事

八代更生病院５０周年特別講演会

さる10月31日、八代ロイヤルホテルで、医療法人山田会八代更生病院＜古城町＞創立50周年記念特別講演会が開かれ、柔道家の上村春樹九段（58）＝第五代講道館長・全日本柔道連盟会長＝が「指導者の条件」をテーマに講演した。

上村氏は下益城郡（現・宇城市）小川町出身。八代東高から明治大学へ進学、1976年モントリオール五輪では柔道無差別級で金メダルを獲得した。氏は柔道を始めたきっかけや「自分が今何をしなければならないか」「後世に正しい柔道を伝えるために何をしなければならないか」「練習の段階で最悪の事態を想定し、試合では『自分が一番強い』と思って試合に臨む」などを、現役当時の試合中のエピソードを交えながら語った。

また、氏は指導者として五輪チャンピオンを育てるには「明確な目標を持たせて直ちに実行させ、なおかつ続けさせること、当たり前のことをきちんとやることの大切さを悟らせることが重要」と話し、指導者にとって一番重要なのは、『いかにやる気を起こさせる動機づけができるか』と『いかに自分を高めることができるか』であると力を込めた。

さらに上村氏は、パリ視察から帰国したばかりという事で国際ルールの改定についても報告、来場者は熱心に聞き入っていた。

（くまさん倶楽部 263号 2009.11.15 記事より抜粋）

永年勤続功労者表彰

上村玲子	36年	次郎丸由美子	27年
増田純子	38年	阿部育代	41年
森下喜代美	30年	前田秀子	31年
小橋和子	30年	西山民子	27年
吉川清香	27年		

表彰状を改めて読み返し、いままでのがんばりを評価していただいたのだと思い感無量でした。多年に渡り多くの方々に支えられここまで来たことに感謝したいと思います。

患者様の高齢化に伴う食事内容の変化、個人対応の増加などめまぐるしく一日がすぎていきますが食にかかわることが出来る喜びを忘れず多職種との協力のもとに今後も心をこめて職務を全うしたいと思います。

上村玲子

創立５０周年を振り返り

去る10月31日に、当院は創立50年という大きな節目を迎えました。
その歳月は永くもあり重くもあり、様々な思いと共に、職員の皆様はじめ地域社会の方々のご支援ご協力なくしては、乗り越えられない月日だったと改めて感謝申し上げます。

設立当時は、むかし麦島城があったころの東南の角あたりになり、美しい池があり、子供たちが泳いだり、あひるが泳いだり、殿様蛙がけたたましく声を響かせたり、釣りを楽しんだり、と田園風景豊かな田舎景色でした。口の字形の建物、37床16人の職員、コントミン主剤の医薬品、初任給4000円・・・そんな時代でした。

新たな51年目の出発にあたり、（信頼され愛される病院・あたたかさと癒しの医療）を掲げて、宮本院長先生をリーダーに共に歩みたいと思います。

今村雅子

実習・体験学習

くまもと労災看護学校

受け持ち患者様を通して学んだこと

●精神症状は言語的な訴えだけでなく、表情やしぐさなどにも表れる。看護者は細かく日内の変動を観察する必要がある。また、コミュニケーションは非言語的なものでも、特に精神疾患のある方には寄り添う看護につながるのだと学んだ。

●相手のことを怖いと思って関わると、上手くコミュニケーションをとることができないことがわかった。先入観をもって関わっていたが、関わってみるとたくさん話をしてくれたり、患者さんの反応の変化もみられ、精神障害を持っているからといって、怖いと思うのは間違っていると思った。１人の人間として患者さんのことを知っていかなければいけないと感じた。

●患者様は1日1日精神状態が違い、妄想や幻聴、独語などの症状があったので、そのような方とのコミュニケーションの取り方などを学ぶことができた。

●妄想がある方との接し方について学ぶことができた。教科書上の勉強と臨床での実際の対応とでは違いがあり、その人の妄想がその人に対してどのような影響を及ぼすのかで対応が違ってくるということがわかった。

●患者様と関わる中で気分の変動があらわれたり、独語、幻覚、妄想などがあり、その中でコミュニケーション技術、待つことの必要性、適度な距離（患者様の気持ちを考えた距離）の必要性などを学ぶことができた。

●まずは相手を受け入れること、相手の思考や認知のズレが行動背景にあることを理解する。自分の価値観や思いで相手をみて評価するのではなく、きちんと相手の思いや考えをしっかりときいて理解することが大切であることを学んだ。

●患者の行動には何か意味があるので、なぜそのような行動をするのかを考えることの大切さを学んだ。

八代市立第三中学校
体験学習･職場インタビュー

拝啓

さわやかな好季節を迎える頃となってまいりましたが、みなさまにはお変わりなくお過ごしのことと思います。わたしたちも元気に学校生活を送っています。

さて、先日職場体験において、お忙しい中にもかかわらず、病院を体験させていただき、ありがとうございました。おかげさまで、患者さんに対してのいろいろな注意点、また患者さんの気持ちを分かろうとする努力や難しさ。あといろんな職場が一致団結していることのすばらしさを学びました。特に一番心に残っていることは、デイケアにいって患者さんと触れ合ったことです。最初、患者さんに自己紹介をしたときはとても緊張しました。しかし、ふれ合っているうちに、自然と溶け込められるようになりました。後からラジオ体操、ダンベル体操などをしましたが、私達が溶け込めるようにと気配っていただいたことをありがたく思います。みなさまも病院の見学や私達の面倒を見て下さってありがとうございました。これからは、病院で学んだことを学校生活に活かしたいと思います。ありがとうございました。

みなさまのご健康をお祈り申し上げます。

かしこ

2年4組44号　松元志帆

小倉リハビリテーション学院 OT実習

福岡県北九州市にある小倉リハビリテーション学院作業療法学科の臨床実習生です。

精神科の実習は初めてということもあり、患者様と楽しくかかわることで何かを掴めたらいいと思っています。患者様の笑顔をみるとこの道を選んでよかったと感じます。

作業療法学科　４年　津田安弘

九州精神保健学会

第５５回九州精神保健学会

・認知症患者、看護者のストレス軽減に向けて
ーBPSDに対する看護を通してー
病棟看護師　　中村友美

・対人関係に支障をきたす患者への介入
ーフェイススケールを活用してー
病棟看護師　　吉永かおる

・デイケアにおける主観的ウェルビーイング評価の変化と支援の振り返り
ー統合失調症患者の５年間の変化からー
デイケア看護師　前田厚子

・　地域生活における自律への援助精神科訪問看護師の役割から
訪問看護師　鶴山康子

・長期入院患者にとっての外出の意味
ーみんなが治療意識を持てるシステムつくりー
病棟看護師　　濱田誠之

・感染の活動を通して見えてきたもの
ー精神科における感染対策ー
病棟看護師　中山　重紀

・幻覚妄想状態の老年期患者の看護
ー希死念慮の改善をみた看護の振り返りー
病棟看護師　坂本豊美

・思春期ＳＳＴ
ー「ぶどうの木の会」の効果
ＯＴ・梅田幸二

・精神疾患で高度肥満への管理栄養士としてのかかわりを通して
管理栄養士　二田口　佳子

・家族崩壊の危機から自立へと向かった患者の退院支援
ＰＳＷ　前平直子

女性医師の会

亡くなった方へのリスペクト

病院で亡くなる人がおられることは、あたりまえのこと。でも、いつも食堂でごはんを食べていた人がいなくなっていることに、ほかの患者さんが気がつかないわけにはいかない。

精神科の療養棟には、二十数年の長期入院の患者さんが、今も多数入院していらっしゃる。退院できないにはそれぞれ理由があり、これは社会問題ではあるのだが、現実にはみなさん高齢化を迎え、精神障害に身体合併症、認知症が加わり、どう考えても退院することで、QOLが大きく低下してしまう。

最近、亡くなったＡさんもそんな１人。統合失調症＋知的障害があり、施設では適応できず、精神科療養棟に長期入院されていた。生活の場が同じ場所であることが、心身の安定のためには大事な条件である。少しでも変化があると、こだわりが生じて食事が摂れなくなってしまう。そんなＡさんに、再発がんが生じた。数年前のがんは外科に転院して手術できた。しかし、再発にはもう方法がないとのこと。Ａさんの精神的苦痛を考えると、昔から住み慣れた精神科療養棟でぎりぎりまですごしてもらうことがいいと誰もが考えた。痛み対策が必要ならば、院内のほかの病棟に移ってもらっても、最後まで精神科病院である住み慣れた本院で対応する、家族もそれが希望であった。

素直でやさしい性格ゆえに、職員だけでなく、ほかの患者さんからもかわいがられていたＡさんだった。事情を知っていた職員は些細な変化にも注意していた。予告されていた余命よりも生きておられた。痛み対策は？と気にかけ始めてたある日、心疾患の合併症のためか、眠ったまま早朝に大往生された。職員に覚悟はできていた。

いつもの朝の申し送りでそっと報告があった。突然人が消えた事実に触れないわけにはいかない。Ａさんと長期をともにした患者さんたちにも、主治医の私から説明義務があるように感じた。特に親しかった患者さん数名に集まってもらった。医師の守秘義務に差しさわりがない程度に事実を伝えた。ご冥福を祈ろうと声をかけたら、「東の空にむかって祈るといいと思う。」と一人の患者さんが言われたのでみんなで空に向かって合掌した。

ほかの科の病院ではどうするのだろう。ある日、ベッドが空白になっている。高齢化を迎えた精神科病院の中は、そんなさみしさにまけてしまいそうである。

熊本県保険医協会新聞掲載　安川節子

行事紹介

ふれあい祭り　10月

八代更生病院創立50周年となる記念の年のふれあい祭りでした。

今年は前日より天候が心配されましたが、当日は天候に恵まれバザーには朝早くから行列ができるなど多くの地域の方がおいでいただきました。また、新型インフルエンザが流行している為、ふれあい祭りの見送りも考えられましたが患者様と地域との交流も考え手指消毒やマスクなどを設置して感染対策に努め、開催いたしました。

体育館での脳活性ゲーム

ひかり保育園の子供たちによる和太鼓・麦島婦人会・町内有志・大海かつ絵さんによる歌謡ショー・大正琴演奏・キッズダンス・おさな会舞踊・八代市立第四中学校による吹奏楽演奏と各年代層が楽しめる内容豊富プログラムで進行しました。結成数ヶ月の更生病院軽音楽クラブは数回の練習とは思えないかっこいい演奏を聞かせてくれました。

バザーも開始2時間で完売する所もあり大盛況でした。毎年恒例の豪華景品が当たる大抽選会では当選番号が呼ばれるたび歓声が上がり大賑わいでした。

来年もスタッフ一同、患者様と地域の皆様に楽しんでいただけるよう努力していきたいと思います。

フライシャッカー博士講演会　10月

八代市精神科医会とヤンセンファーマー株式会社の共催でフライシャッカー先生の講演が同時通訳で更生病院で行われました。八代市内の精神科医と当院の医師・看護師が参加しました。

座長を院長の宮本憲司朗が務め、持効性注射製剤による治療技法の実際等、後半のディスカッションも含め興味深い博士の考えを聞かせていただきました。

ただ今取り組み中

電子カルテ　本稼動に向けて急ピッチ

２２年２月の本稼動へ向けての操作教育が始まりました。スタッフを振り分け連日、画面に向かいパソコン立ち上げの段階から猛特訓が続いています。まだまだスムーズな操作とは行きませんが、医療機能評価の受審と併せ大変な平成２２年を迎えることとなりました。

医療機能評価Ｖ６．０更新のための受審へ向けて

平成２２年５月の訪問審査を目標に、各領域ごとに準備を進めています。Ｖ４．０から一気にＶ６．０での審査です。

Ｖ６．０は、患者・家族のニーズ、社会環境の変化に合わせた改定としており、評価の視点を取り組みの過程、また多くのテーマについてＰＤＣＡサイクルを重視するとあります。整理統合され評価項目は減りましたが、地球環境への配慮など新設項目への対処も必要になってきました。マニュアルについても運用面の評価が強調されています。５年間の実績と振り返りをしながら整理をしています。

いい報告ができることを願いながら職員一同がんばっています。

お知らせ

◎　平成２２年１月
　　ホームページを刷新します。
◎　平成２２年２月
　　電子カルテ本稼動
◎　急性期治療病棟開設へ向けて
　　取り組み中

外来診療案内

		月	火	水	木	金	土
午前	新来	宮本	安川	阿部	田中	宮本	
	再来1	安川	宮本	宮本	阿部	田中	宮本
	再来2		阿部	田中	片岡	阿部	
	再来					安川	
午後	予約外来						休診

- 診療科目　精神科・心療内科・内科
- 受付時間　新来　午前　8:30～11:30（月・火・水・木・金）
  再来　午前　8:30～12:00（月～土）
  午後　13:30～16:00（月～金）

新来は予約制で月～金曜日の午前中のみとなります。

患者様の権利

1.個人として、その人権を尊重される権利

2.自分の受けている治療について知る権利

3.良質の医療を受け、選べる権利

4.公平で差別されない医療、及び、対応を受ける権利

5.安心、安全な環境で治療を受ける権利

交通のご案内

JR八代駅から……車で１５分
バスでお越しの際は八代駅方面から
産交バス植柳経由南平和町行き
　又は植柳経由君ヶ渕・破木・坂本駅行きにお乗り下さい
産交バス千反町バス停より徒歩３分

医療法人　山田会
八代更生病院
〒866-0043　八代市古城町1705
TEL　(0965)３３－４２０５
FAX　(0965)３５－８２７５
URL　http://www.y-kousei.jp/
mail　info@y-kousei.jp